

3. 助成事業報告書

事業概要

現在九州のほとんどの大学や教育機関では障がい学生支援が遅れているといわざるを得ない現状にあります。そのため、障がいを持つ多くの学生が、周囲の健常学生と同じに十分な教育を受けられない状況がみられます。また、支援が行われている教育機関においても、学内で支援を行っている学生にきちんとしたケアや情報が行き届かないため、不安や苦悩を経験し、また同様の学生を多く見てきました。

そこで必要なのが、支援を受けるもの、支援をするものが相互に支え合い、共に学ぶ喜びを分かち合える環境です。この環境を九州の教育の場で作り出すためにMCPは細やかなサポートと啓発を行っていきます。

今回、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受け、「学びたい気持ちのある聴覚障がい学生に安心して学べる環境を提供するとともに(学習権の保障)、この問題を広く社会にアピールすること」を目的にこの事業を実施してきました。

今回の事業は下記のとおりです。

- ①ノートテイカー、パソコンテイカーの育成・派遣（福岡県内2大学 一般公募）
- ②障害者並びにその支援者を対象とした相談
- ③シンポジウム
- ④報告書の作成

今回の助成事業の告知方法は、チラシ・ポスターの作成、ホームページでの掲載、及びSNSを活用した方法にて提示。

- チラシ・ポスター 福岡圏内大学全てに配布。そのほか、県外の3大学に配布。
- ホームページ 期間内に申し込みフォームと共に掲示
- SNS facebook、Twitter、ブログにて告知

①ノートテイク、 パソコンテイクの育成・派遣

ここでは、情報保障をするための支援方法について、講習会を行った。*1

障がい学生、支援学生ともに講習を受け、支援に必要な講義、実技を習得し実際の支援活動を行うことを目的とする。障がい学生にも実際に支援に関する実技を知ってもらうことで、障がい学生本人が支援を受ける際、どのような支援方法・ルールになっているのか、さらに支援できること、できないことを理解してもらう。また、支援学生に何らかのトラブルが起きた際の対処法を一緒に知ってもらうことで、よりスムーズな支援へ繋がることを目的としている。

また、当初の予定を変更し、2つの大学にて講習会を実施した。1つは広く一般の方を公募で集めて、講習会を行った。

一般の方を対象とし広く周知することで、障がい学生支援の必要性を認識していただき、今後障がい学生支援に関わっていただくことを目的とした。

講習会の主な内容は、ベーシック研修、ノートテイクまたはパソコンテイク講習、フォローアップ研修を行った。

*1情報保障・・・場を共有する全ての人が、同質、同量の情報を得て、その場に参加できるようにするための活動。全ての音情報を聞き取り、手話や文字で、聴覚障害者に伝えること。

A大学

| | |
|------|--------------------|
| 日程 | 平成24年10月 |
| 場所 | A大学教室 |
| 対象 | 聴覚障がい学生(難聴含む)と一般学生 |
| 参加者数 | 39名 |

B大学

| | |
|------|--------------------|
| 日程 | 平成24年11月 |
| 場所 | B大学教室 |
| 対象 | 聴覚障がい学生(難聴含む)と一般学生 |
| 参加者数 | 19名 |

一般公募

| | |
|------|---------------|
| 日程 | 平成24年11月 |
| 場所 | 春日クローバープラザ |
| 対象 | 学生、大学関係者、一般市民 |
| 参加者数 | 12名 |

ベーシック研修

障がい学生支援の基本的な考え方などを講義形式で実施

ベーシック研修では、支援の導入として実技講習の前に、聴覚障害支援についての考え方などの理解を深めてもらう。

聴覚障害について知識のない学生のほとんどは、聴覚障害者＝みんな同じと思っている。そのため、講義の始めに実際に聞こえない体験をする体感ゲームを通して、聞こえないことで生じる不便さを感じ、「聞こえ」について説明した。

特に、聞こえ方や、dB(聴力レベル)は同じと思っていることが多く、障がいに差があることについての知識がほとんどない。

そこで、まずコミュニケーション方法、耳の仕組み、聞こえ方などを、DVDなど映像媒体も交えながら説明を行う。

次に、ろう文化にふれてもらった。

ろう文化では、手話の歴史、ろう者の生活等を説明。

ろう者の文化が異なる(異文化である)ことを、自文化と比較しながら考える。

聴覚障害、ろう文化等について説明をした後、情報保障の説明に入る。

情報保障の意味、その役割について、講義形式で説明。

ベーシック研修では、このように基本知識の説明を中心に行う。

これを始めに受けてもらうことで、後の実技講習を受ける際に、どのように支援を行っていくのか、障がい学生とどのようにコミュニケーションをとるのかについて理解し、実技講義で活かしていく。

参考資料 パワーポイント(抜粋)

主な内容

- ・聴覚障害について
- ・コミュニケーション手段
- ・ろう文化
- ・情報保障など

聴覚障害について

聴覚障害と一言で言っても、人によってその障がいの重さは様々です。

また、コミュニケーション手段も、一人ひとり異なります。

手話を使う人、唇の動きを読み取り、相手と声で会話をしている口話を使う人、紙に書いてやりとりをする筆談と書く方法もあります。

先ほどは、映像で実際に聞こえ方について皆さんに見てもらいましたが、次は聞こえ方を目で見る形で表した図を見ていただきます。

間違った認識のまま支援に入ることがないように、障がい学生1人ひとりによって症状や重さがさまざまなことを知ってもらおう。また、コミュニケーション方法も多様である事を伝える。

コミュニケーション手段

手話 : 手の位置や動き、顔の表情などで意思を表現する

口話 : 相手と音声を用いて会話をしている

談話 : 話し手の唇や舌の動き、顔の表情から話の内容を読み取る

筆談 : メモ用紙に文字を書いて意思を伝え合う

その他 : メール、チャット、テレビ電話

学生からの要望が特に多いコミュニケーション手段について説明。学生の実体験をもとに、その場面に応じてのコミュニケーション方法について触れる。

最近はネット社会ということもあり、コミュニケーションも変化していることを伝える。スカイプ等のテレビ電話などを使い手話で会話をしている人も増えてきた。

情報保障について

講義の内容や周りの様子(学生の発言や、チャイムの音など)などの音情報をその時、その場で、伝える文字による通訳です。

自分のノートのように、講義内容をまとめ、作成するわけではありません。

その場にある音情報をすべて文字にすること。

= 情報保障(じょうほうましよう)

情報保障についての説明。意味やその役割、支援について説明。学生に分かりやすくするため、支援現場での情報保障の意味を伝える。

ノートテイク、パソコンテイク講習

ベーシック研修を受けた者を対象に演習方式で実施。

ベーシック研修を受けたものを対象に実技を中心に行う。

まず、もう一度情報保障について説明を行い、講義の時の情報保障の方法について解説。

ノートテイク・パソコンテイクの2つの支援方法を説明した後、それぞれの講習に応じて実践を行う。

ノートテイク講習会の場合は、使用する用紙やペンを実際に使い、支援に必要な技術の説明をする。日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)の資料を活用し、実際の講義映像をもとに、ノートテイクをしていく。

ペアによるテイクの方法、交代方法等、実際に支援活動を行う際に必要な知識を学んでいく。

パソコンテイクでは、それに必要なソフトIPtalkの使用法、設定等を指導する。

パソコンテイクに必要なタイピングスキルはもちろん、この支援を行うにあたって長時間にわたる場合、支援で気をつけなければならないことを説明。

また、テイクの在り方をノートテイク、パソコンテイク共通で必ず伝え、その例となるような見本を示した。

情報保障とメモと記録の違いをみて書き方、打ち方を学び、情報保障の例を提示。

ここでは、情報保障は自分のノートのように書くのではなく、文字による通訳であると説明し、書き方を間違えて覚えないう注意して講習を進める。また、パソコンでは連携入力によって、情報保障をおこなうため、2人1組での練習も行った。

実技の面だけではなく、情報保障を行う際の責任も一緒に認識してもらうため、DVDを使い情報保障がある時とない時の映像を見せ、テイクの必要性を再度認識してもらう。

参考資料 パワーポイント(抜粋)

主な内容

- ・情報保障
- ・テイクの在り方
- ・情報保障に使うソフトの説明
- ・テイクの方法
- ・打ち方、書き方説明など



パソコンテイクの際に使われるソフトIP talkの説明。

何をするものか、何が出来るのかなどを実際にソフトを起動させ、自分で体験しながら細かく説明。

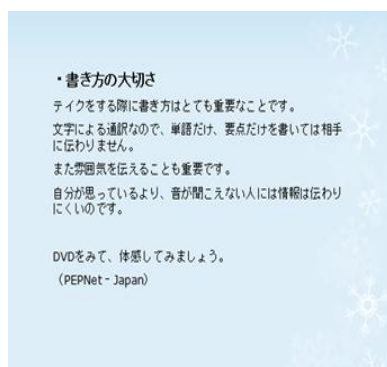


大学の講義における基本的な座り方等を説明。

(初めて支援を行う際の基本的な座り方、交代の仕方等)

テイクを行う際なぜ2人以上であるのかをきちんと伝える。

(1人で支援を行い、書きもれや手首を痛める学生もいるため、そのようなことが起きないように説明)



初歩で身につけておくべき重要な書き方について例を見せ、メモや自分のノートとは違うことを理解してもらおう。

フォローアップ講習

実際に支援をしている学生、始めた学生を対象にスキルアップのための研修を実施。

初めて支援を行っていく際に、必ず生じる問題を取り上げて説明。

書き遅れや、書き漏らしの対処法、連携作業で生じるトラブルなどを説明。

支援における手の負担から、手を痛めてしまう学生も多く、その大きな原因に、筆記用具の適応性や書き方やキーボードの打ち方の個人の癖が理由となっていることも多々ある。

そこで、筆記用具の選び方、書く時のポイントやペンの持ち方、キーボードの正しいホームポジションの姿勢などを改めて説明し、それに加え、書き方のポイントをさらに伝える。

講習でも説明をした、略語や記号を使う方法等をさらに念入りに伝え、支援がよりスムーズになるようポイントを伝える。

それと同時に、自分自身の癖を見直してもらう機会を作り、支援者本人のスキルアップを促し、さらによりよい支援につなげるよう指導。

DVDを使い実際に講義の内容をテイクしてもらい、くせ字や、字の大きさ、用紙の使い方などの確認を行う。

また、他大学の取り組みを紹介し、学生が支援を行うことが特別ではなく多くの大学で取り組まれていることを伝え、より良い支援を行うためにどうすればよいのかを学生たちにも考えてもらう。

参考資料 パワーポイント(抜粋)

主な内容

- ・ポイント
- ・書き方等について再確認
- ・他大学の取り組み等

他大学の取組

全国、学生による障害学生への支援は珍しいことでも、特別なことでもありません。

学生による障がい学生のサポートは近隣大学でも行われています。

学生同士が助け合うことは、社会へ出た際にも大きく力を発揮できます。

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

大学や機関と一緒に聴覚障害学生に関する支援や情報を発信してまいります。

他大学の取り組みを紹介し、学んでもらう。

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークなどを紹介し、常に新しい情報を入手できるようにする。

略語

ノートテイクをする際に略語を使うことで、時間の短縮になります。

(例) プリント→プリ テキスト→テキ

| | |
|------------------------------------|---|
| 授業で何回も出てくる言葉を最初はどう表すかを学生と決め、略語を作る。 | ①と②の間に録音機器、マイク、マイクケーブルを固定して使う。 ③は④のマイクケーブル、⑤は⑥のマイクケーブルを固定して使う。 |
|------------------------------------|---|

注意：略語が入り過ぎても混乱するので、わかりやすくするために、自分たちで工夫する。必ずお互いに略語が理解できているようにする。(用紙の上などに記しておくなど)

略語を使い時間短縮を行えるようにする。

使いすぎて内容が分かりにくくなってしまったり、お互いが略語の意味を把握しておらず、読み手に通じていないことなどがあるため使い方に注意。

書き方

書き方

手に負担がないよう、また人が読むことを意識して書きましょう。

次のことに気をつけると、より情報の多いテイクになります。

| | |
|----------------------------------|--|
| ●ペンは真ん中を持つ。 (下の方を持たない) | まっ刺し 真ん刺し |
| ●くせ字には注意！ (自分が読めても人が読めない困る) | ん → W (真ん中刺し) し → U (真ん中刺し) く → L (くが曲がり、んが丸い) |
| ●少し大きめに書く (小さいよりも、少し大きめが見やすい) | ち → ち (真ん中刺し) は → ば (くが丸い、んが丸い) れ → れ (んが丸い) い → い (んが丸い) え → え (んが丸い) |

早く書こうとして、自分の癖字が出てしまったり、慣れてくると忘れがちな事なのでもう一度復習。

早く、丁寧に、読みやすく書けるように。

②障害者並びにその支援者を 対象とした相談

①の対象者へ、アフターケアとして実施。

支援における状況確認、障がい学生、支援者のテイクのケアを目的とする。

3カ所共通

開催日：平成24年5月～平成25年3月（計12回）

場所：大学、事務所、市民施設等

対象者：障がい学生、支援学生、一般公募参加者

相談の主な内容

相談内容のほとんどが、コミュニケーションや、支援者をさらに広げる方法について、書き方、パソコンの打ち方等が目立った相談でした。

また、これらに関しては実際に支援を行ってきた者、受けてきた者が対応し、より近い立場の者が対応していきました。

特にテイクに関する悩みについては、練習方法を教授したり、実際に一緒に練習をしたりと、支援がよりスムーズになるよう、実践を交えた方法で対応しました。

一方、一般公募では大学における支援の状況などの相談が多々ありました。

注：上記の相談内容は、多くの相談に寄せられたものだけを抜粋して提示しています。

個人情報保護法のため、個人が特定されるような相談内容は提示をしておりません。

③シンポジウム

助成事業の成果報告と、障がい学生支援の啓発に益するものとするために、シンポジウムを開催。

助成事業報告と、講演を行う。

また、広く地域に呼びかけることで、障がい理解につなげていくことを目的とする。

| | |
|-----|--------------------------|
| 日程 | 平成25年3月20日(祝・水) |
| 時間 | 13:00～16:00 |
| 場所 | 春日クローバプラザ(セミナールームB) |
| 対象者 | 福岡県内各大学、聴覚特別支援学校及び保護者、市民 |

パワーポイント抜粋

MCPシンポジウム

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2013年3月20日(祝・水)

特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCP



MCP シンポジウム

～「学びたい」を支援する～我がMCPのミッションです。九州内で学ぶ障がい学生、支援をする学生が相互に支え合う関係を目指します。
 今年度は聴覚障害者への支援講習会及び相談会を行ってきました。
 私たちと一緒に支援の現状や課題を話し合いませんか。

～シンポジウム内容～

12:30～13:00 受付
 13:00～13:10 開会式
 13:15～14:15
 MCP事務局の活動報告

14:30～15:15 講演
 (講師/筑紫女学園大学教授
 山崎安則氏)
 15:25～15:45
 情報交換会



日時

2013年3月20日(祝・水)
 13:00～16:00 (12:30より受付)

場所

クローバープラザ セミナールームB (西棟5階)
 〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番7号
 JR春日駅すぐそば

対象

障がい学生支援担当者及び学生、進学希望の障害者を持つ中・高校生、保護者、障がい学生支援、MCPに関わっている関係者、団体

内容

聴覚障害学生支援の現状報告、成果の発表
 障がい学生支援の啓発に益する内容のシンポジウム

講演「自己決定権の尊重と
 情報保障」

講師/筑紫女学園大学教授
 山崎安則氏



申込み方法

NPO法人障がい者相互支援センターMCPウェブサイト内、専用フォーム(シンポジウムの申込)、メールいずれかの方法で3月10日(日)までに下記までお申込みください。(参加費無料)

※情報保障等、特別な配慮が必要な場合は、お申込みの際にお知らせください。資料等の準備がある為、事前申込みをお願い致します。

お申込み先

URL : <http://mcp2012.web.fc2.com/>
 E-mail : mcp_jimukyoku@yahoo.co.jp

特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCP

事務局 連絡メールボックス:福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50
 福岡県合同庁舎5階 福岡県NPOボランティアセンター

【連絡先】事務局 担当:山口

E-mail : mcp_jimukyoku@yahoo.co.jp (聴覚障害者有しておりますので、メールでのご連絡をお願い致します)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

